

残したい

想いと風日京



高山市
朝日町

朝日町 西洞獅子

高原 真作さん
たかはら しんさく

西洞獅子を舞うには

どうしても若い力が必要や

獅子舞が大好きやと言ってくれる

若い者と一緒になって

可能な限り守っていききたいな



アクロバットで魅了

高山市朝日町西洞で生まれ育った高原真作さんは、津島神社に伝わる「西洞獅子」に子どもの頃から関わってきました。

昔子どもが多かった頃、最初に習うのは獅子舞でした。何年かこれを経験すると、鉦・雅楽・太神楽などへ移る者と獅子舞に残る者に分かれました。

西洞獅子では、獅子頭を横へ振らず回すように軽やかに動かします。また、曲芸のようにアクロバットな技を見せる演目も大きな特徴のひとつです。

このような激しい舞いを担うことが出来るのは40歳頃までで、その後は太鼓などを担当しながら後進の指導にあたります。

西洞獅子

表現豊かな

6つの演目が現存しています

※このほかに「オカラザケ」という演目もありましたが現在は継承されず途絶えています。



へんべとり

仲良く遊んでいた雄獅子と雌獅子が、へんべ(蛇)を見つけると喧嘩をはじめます。自分のものにした雄が油断していると今度は雌が横からさらい、最後は仲良く2匹でくわえます。



担ぎ獅子

相方を肩車する、担ぎあげるなどのアクロバットな技で魅了する西洞獅子の花形です。



オーヒリホ コスズミ シタカイドウ

2~5頭の獅子が並び、動きを揃えて舞います。

しらみとり

2頭の獅子が、体についた「しらみ」を取る様子を表現します。

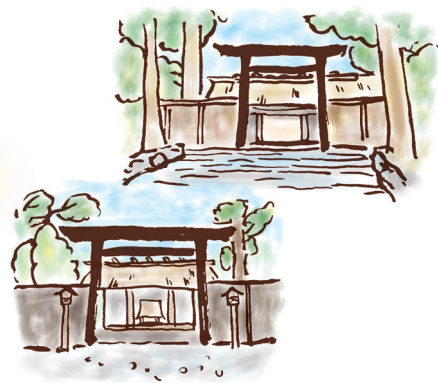
届け獅子舞の心

想いをこめて
舞いを届けてきました



楽しく練習も

若い人が「やりたい」と思わなければ
継承は難しいと考え、子どもたちが楽
しく練習できるよう心がけました。



しき ねん せん ぐう 式年遷宮での披露

平成5年に行われた「第61回伊勢神宮式年遷宮」
の際は、外宮・内宮の両方で獅子舞を奉納する
機会に恵まれました。

招かれての出演

祭り以外にも、さまざま
な催しに招かれて獅子舞を
披露しました。

橋の竣工式や国府J Aまつ
り、氷点下の森まつりなど
の地元のイベントはもちろん、
美濃加茂市にある「日
本昭和村」（「ぎふ清流里山
公園」に改称）や、高山市
の姉妹都市である平塚市の
「七夕まつり」など、遠方か
ら声がかかりました。

また、平成5年の伊勢神
宮式年遷宮では、同じ朝日
の「青屋獅子」や高根の「日
和洞獅子」と一緒に招待さ
れました。

後継者の育成

20年ほど前、当時40歳を
迎えたメンバー5、6人が

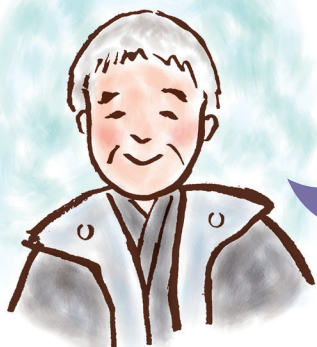
中心となって後継者の育成
について考えました。

そこで、夏休みに地域の
小・中学生や高校生を集め
て獅子舞の練習会を企画し
ました。おやつを用意した
り、バーベキューパーティ
ーを開いたり、頑張った子
どもたちにはご褒美も用意
し、練習が楽しいものにな
るよう工夫しました。

当時練習に参加した子ども
たちは現在30代前後になり、
頼もしい後継者となっていま
す。家庭を持ち高山市街地に
移り住んでも、祭りの日には
必ず地元へ帰ってきます。

これからも少子化は進み、
ますます継承が困難になっ
ていくことが予想されます
が、男女関係なく継承する
など、昔のやり方を変えな
がら伝統を守っていく方法
を考えています。

いま、
伝えたいこと



（文・絵
画 大森貴絵
高山市）

飛騨市にもアクロバットが見事な「数河獅子」があるんやが、
人を持ち上げる曲芸は若者でないと難しいということで令
和5年で終わりになってまったんやさ。

西洞にも子どもがおらんで祭りの稚児さんも揃わん。後継
者問題は深刻やけど、「お前たちやれよ」と強制するものでは
ないでな。獅子舞が大好きという思いで頑張ってくれる
若いメンバーの存在は、本当にありがたいと思っとるよ。